

機械器具 9 医療用エックス線装置及び医療用エックス線装置用エックス線管
一般医療機器 特定保守管理医療機器（設置） 汎用 X 線診断装置用非電動式患者台 40654000

エマージェンシー・ストレッチャー（KK-8120B）

【警告】

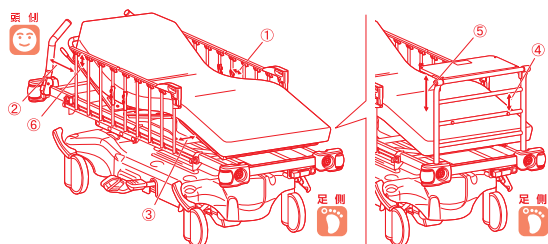
＜使用方法＞

●すき間に注意してください

[ストレッチャーやサイドレールにはすき間があります。これらのすき間に身体の一部（特に頭や首など）がはさまれて、けがをするおそれがあります。]

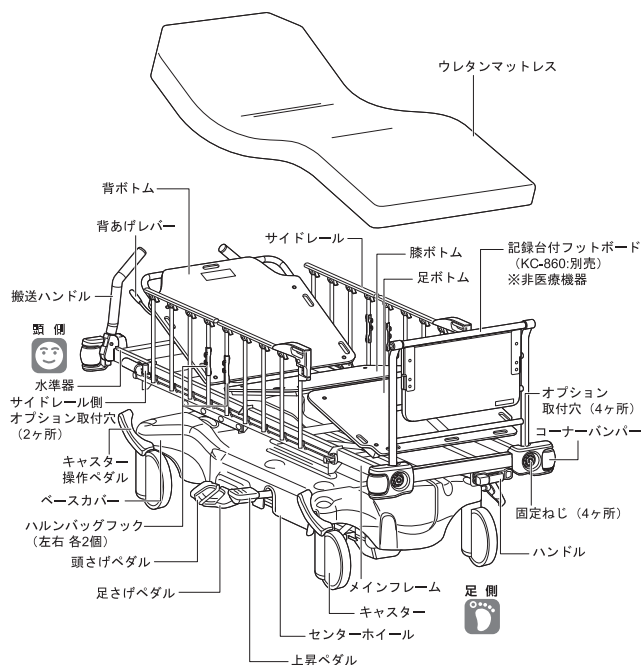
- ①サイドレールの内部のすき間
 - ②サイドレールと搬送ハンドルのすき間
 - ③サイドレールとマットレスのすき間（幅方向）
 - ④記録台付フットボード（KC-860：別売 以下、ボード）内部のすき間
 - ⑤ボードとマットレスのすき間
 - ⑥あがっているボトムとボード・サイドレール・マットレスなどのすき間
 - ⑦ストレッチャーと壁やものとのすき間
- ※④⑤はボード取付け時のみです。

※図は一例です。



【形状・構造及び原理等】

■各部の名称



■主材料

フレーム	・・・ スチール
ボトム	・・・ フェノール樹脂板
サイドレール	・・・ スチール／アルミニウム
ベースカバー	・・・ ポリプロピレン (PP)
マットレス (側地)	・・・ ポリエステル＋ポリウレタン
マットレス (中芯)	・・・ ウレタンフォーム

■動作原理

- 背あげ
ガススプリングの伸縮によるリンク機構
- 膝あげ
手動アクチュエーターの伸縮によるリンク機構
- 高さ調節/ストレッチャーの傾斜
油圧シリンダの伸縮による

【使用目的又は効果】

汎用 X 線装置を必要とする一般／平面画像の撮影や特別な診断撮影の場合に患者の体位を保持し、X 線撮影を行うための台

【禁忌・禁止】

＜適用対象（患者）＞

●小児（12 歳以下）には使用しないでください

[本製品は小児（12 歳以下）向けには設計されておりません。サイドレールなどのすき間に身体の一部がはさまれて、けがをするおそれがあります。]

[サイドレールをあげていても、すき間から転落してけがをするおそれがあります。]

【使用方法等】

- 取扱説明書に記載されている方法で設置してください。
- 組立方法および記載されていない使用方法などについては、取扱説明書をご参照の上行ってください。

1) 背あげ

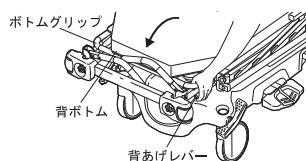
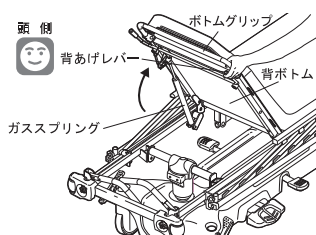
■背ボトムは背あげレバーを握ることにより、上下させることができます。

<あげかた>

背あげレバーとボトムグリップを一緒に握り、背ボトムを引きあげてください。背あげレバーから手を離すと、その位置で固定されます。

<さげかた>

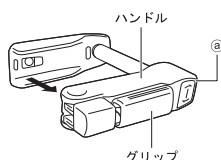
背ボトムを手で支えながら、背あげレバーを握り、背ボトムをさげてください。背あげレバーから手を離すと、その位置で固定されます。



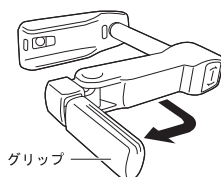
2) 膝あげ

■膝あげの操作は、足側に取付けられたハンドルで行います。

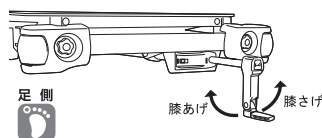
- ①ハンドルの③の部分を持って、止まるまで手前に引き出してください。



- ②グリップを垂直に起こし、グリップを握ってハンドルを回してください。



- ハンドルを時計回りに回すと、膝あげが行えます。
- ハンドルを反時計回りに回すと、膝さがげが行えます。



3) 高さ調節

■ペダルを操作することにより、ストレッチャーの高さを調節することができます。

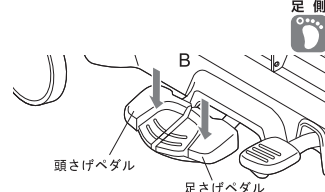
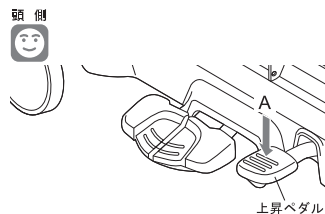
<あげかた>

右図Aの上昇ペダルを繰り返し踏み込んでください。

<さげかた>

右図Bの頭さげペダルおよび足さげペダルを2本同時に踏み込んでください。

※ペダル操作時に異音がある際は、高さを最大高さにした後、上昇ペダルを数回踏み込んでください。



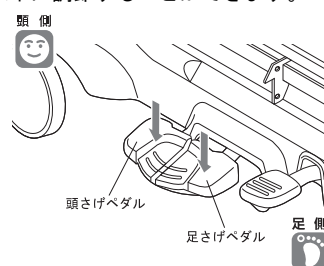
4) 傾斜

■頭さげペダル・足さげペダルを操作することにより、ストレッチャーの傾斜角度を調節することができます。また、高さ調節の際に、頭側と足側の高さがずれてしまった場合に、ストレッチャーを水平に調節することができます。

<ペダル操作>

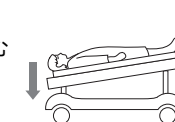
ストレッチャーの高さが一番上まであがっていることを確認してください。ストレッチャーが適切な角度になるまで頭さげペダルまたは足さげペダルを踏み込んだままにしてください。ペダルから足を離すとその位置で止まります。

※患者の体重やフレームの角度によっては、フレームがさがりにくい場合があります。さがりにくい場合は、ボトムをさげ方向に強く押してください。



●頭側操作

頭さげペダルを踏み込む
⇒ さがる



●足側操作

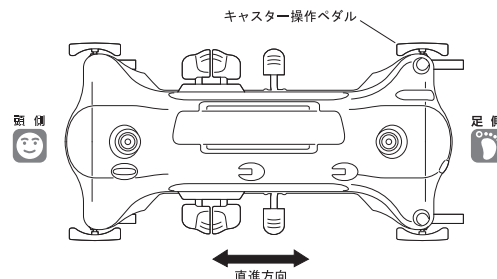
足さげペダルを踏み込む
⇒ さがる



5) キャスター

■トータルロックシステム

頭側と足側にあるキャスター操作ペダルを操作して、次のいずれかに設定できます。

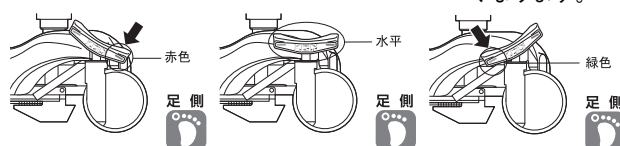


①4輪固定（ロック） ②4輪解除（フリー） ③センターホイール

赤色のペダルを踏み込むと4輪すべての首ふりと回転がロックされます。

ペダルを水平に戻すとロックが解除され、4輪すべての首ふりと回転が可能になります。

ON（直進）
緑色のペダルを踏み込むとセンターホイールが接地します。直進性が向上し、搬送しやすくなります。



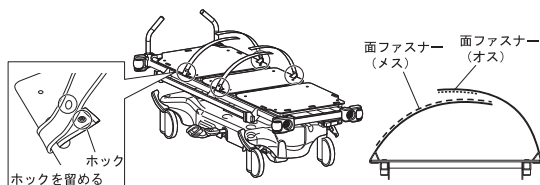
取扱説明書を必ずご参照ください。

6) 患者固定ベルト

■患者固定ベルトは、患者の転落予防のため、患者を固定するためのものです。患者を搬送するときは、必ず患者固定ベルト（2組）をしっかりと固定して、サイドレールをあげてください。

＜ボトムへの固定方法＞

- 図のように指定の位置に患者固定ベルトを通し、ホックを留めてください。このとき、患者固定ベルトの向きに注意し、面ファスナー（オス）と面ファスナー（メス）をしっかりと貼りあわせて固定してください。



＜患者の固定方法＞

- ①患者固定ベルトがボトムに固定されていることを確認してください。
- ②患者の上で、患者固定ベルトがたるまないように、面ファスナーを貼り合わせてください。

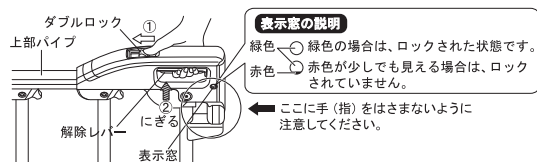
7) サイドレール

【あげるとき（サイドレールを使用するとき）】

- 折りたたんだ状態から上部パイプを持ち上げると、自動的にロックされます。

【折りたたむとき】

- (1) ダブルロックを指で、①の矢印方向に最後まで押してください。
- (2) ダブルロックを押したまま、②の矢印方向に解除レバーを握り、サイドレールをゆっくりと折りたたんでください。

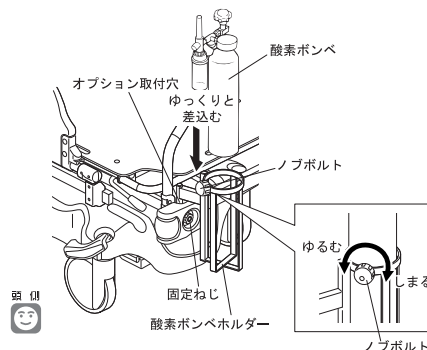


8) 酸素ボンベホルダー

■付属の酸素ボンベホルダーを4隅のオプション取付穴に取付けることで、酸素ボンベが使用できます。

＜取付方法＞

- ①酸素ボンベホルダーをストレッチャー4隅のオプション取付穴に差込んでください。
- ②ストレッチャー4隅についている固定ねじを時計回りに回し、しっかりと固定してください。
- ③酸素ボンベホルダーのノブボルトを反時計回りに回し、ゆるめてください。
- ④酸素ボンベを酸素ボンベホルダーにゆっくりと差込み、ノブボルトを時計回りに回して、しっかりと固定してください。
- ⑤酸素ボンベを軽くゆすり、ぐらつかないことを確認してください。



※付属のアダプターを4隅のオプション取付穴に取付けることで、1箇所オプション取付穴で、酸素ボンベホルダーとIVポールを同時に使用することができます。

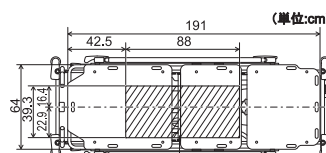
9) X線撮影

■CアームによるX線テレビ撮影が下図斜線の範囲で可能です。

※ストレッチャーのフレームが①の部分に写りますのでご注意ください。

※傾斜(トレンデレンバーク・リバーストレンデレンバーク)状態では、CアームによるX線テレビ撮影ができません。

※Cアームの外寸寸法はメーカーによって異なりますので、条件に合ったものをご使用ください。

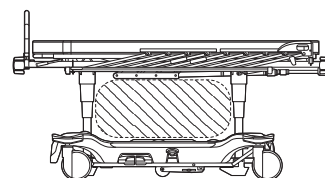


使用可能なCアーム寸法 (単位: cm)

A: 41以上
B: 57以上
C: 39以下
D: 29以上

【CアームによるX線テレビ撮影方法】

- ①ストレッチャーの高さを最高位にして、Cアーム挿入側のサイドレールを折りたたんでください。
- ②Cアームの射影機をメインフレームとベースカバーの間（右図の斜線部）に挿入してください。
- ③撮影部位にあわせ、Cアームの位置を調整してください。



※撮影時、サイドレールが障害となる場合は、Cアームと反対側のサイドレールを折りたたんでください。

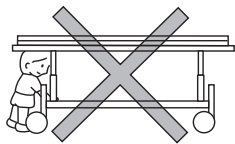
取扱説明書を必ずご参照ください。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- 身体の一部がすき間に入った状態で、ストレッチャーの操作をしないでください
[すき間にはさまれて、けがをするおそれがあります。]

- ストレッチャーを操作する際は、周りの人やもの、患者につながっているラインに注意してください。

[手・足などが入ったまま動かすと、ストレッチャーの可動部分(背ボトムなど)とのすき間にはさまれて、けがをするおそれがあります。]



- ボトムの角度やストレッチャーの高さを調節する際やサイドレールをあげ・下げする際は、患者の状態に注意してください

[患者がボトムの角度やストレッチャーの高さ調節中やサイドレールをあげ・下げする際に動くと、ストレッチャーから転落したり、すき間にはさまれたりして、けがをするおそれがあります。]

- サイドレールなどとマットレスのすき間にチューブ(ドレーン)などがはさまれないように注意してください

[チューブ(ドレーン)などが抜けたり、つぶれたりするおそれがあります。]

- ストレッチャーを移動させるとき以外は、キャスターにロックを掛けてください

[患者の乗り降り、移乗や背あげ等の操作時にストレッチャーが動き、患者が転落するなどして、けがをするおそれがあります。]

- トレンデレンバーグ・リバーストレンデレンバーグをする場合は、マットレスをボトムに取付け、患者固定ベルトで患者を固定してください

[患者がストレッチャーから滑り落ちて、けがをするおそれがあります。]



- サイドレールを折りたたむときはチューブ(ドレーン)などをはさまないように注意してください

[けがをしたり、サイドレールが破損したりするおそれがあります。]

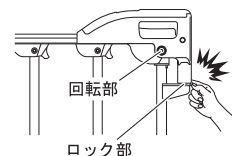
- 患者固定ベルトで患者を固定した状態で、背あげの操作を行わないでください

[患者の身体が締め付けられてけがをするおそれがあります。]

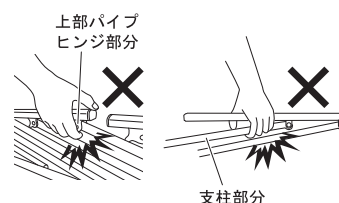
- 足ボトムの角度調節は2人以上でストレッチャーの両側から行ってください。足ボトムとメインフレームの間に手などをはさまれて、けがをするおそれがあります。



- 解除レバーを操作する際は、手や指がはさまれないように注意してください。回転部やロック部にはさまれて、けがをするおそれがあります。



- サイドレールを折りたたんだ状態で使用する際は、サイドレールの支柱部分や上部パイプヒンジ部分に手や指を入れないでください。はさまれて、けがをするおそれがあります。



【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- サイドレールをあげた状態でもストレッチャーからの転落に十分注意してください
[サイドレールを使用していても、すき間から転落してけがをするおそれがあります。]

- 足ボトム端部に腰掛けしないでください

[ストレッチャーが傾斜し、転落してけがをするおそれがあります。]



- 背あげレバーや搬送ハンドルなどの突起物に衣類などが絡まないように注意してください

[ストレッチャーの乗り降りなどの際に転落・転倒して、けがをするおそれがあります。]

[衣類などが絡まった状態でストレッチャーを操作すると、衣類などが引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。]

- ストレッチャーに安全動作荷重を超える荷重を加えないでください

*[ストレッチャーが破損・変形して、けがをするおそれがあります。このストレッチャーの安全動作荷重は250kg(2450N)です。安全動作荷重は、ストレッチャーを安全に使用できる荷重であり、利用者体重とマットレスやオプションなどの付帯物の合計荷重です。]

【保管方法及び有効期間等】

1) 保管方法

- ・背ボトム・膝ボトムを水平にしてください。
- ・高さを最低位置までさげてください。
- ・ストレッチャーの上にはウレタンマットレス以外のものを載せないでください。
- ・ウレタンマットレスの上には何も載せないでください。
- ・高温・多湿・低温・乾燥・ほこりの多い場所を避けてください。
温度：-10～50℃、湿度：30～90%RH、大気圧 700～1060hPa
の環境で保管してください。
- ・ストレッチャーは壁に立てかけたりせず、水平なゆかに水平のまま保管してください。

2) 耐用期間

8年〔自己認証（当社データ）による〕
ただし、キャスターなどの消耗部品は除く

【保守・点検に係る事項】

1) 点 検

＜使用者による保守点検事項＞

患者をストレッチャーに乗せて使用する前に、取扱説明書に記載されている点検項目をチェックして、異常の無いことを確認してください。異常が認められた場合や詳しい点検をご希望される場合は、販売店またはパラテクノコールセンター（取扱説明書参照）までお問い合わせください。

＜業者による保守点検事項＞

■定められた点検期間ごとに、修理業の許可を得た業者へ点検をご依頼ください。

点検頻度（時期）：年1回

摺動部、締結部、キャスターなどの点検

※当該製品の修理を行うには、医薬品医療機器等法に基づく修理業の許可が必要です。

※業者による保守点検の詳細は、パラテクノコールセンター（取扱説明書参照）までご連絡ください。

2) お手入れ

■ストレッチャー本体

●汚れを落とす場合

- ・下記①～③の手順で行ってください。
 - ①水で薄めた中性洗剤にひたした布をよくしぼって拭いてください。
 - ②水でひたした布をよくしぼって、残った洗剤分を拭き取ってください。
 - ③乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

●水洗いをする場合

- ・下記①～④の手順で行ってください。
 - ①ボトムを水平にし、ストレッチャーの高さを最低位にしてください。
 - ②サイドレールを折りたたんでください。
 - ③水をかけて、汚れを落としてください。
 - ④乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

●消毒する場合

- ・必ず下記の消毒剤を指定の濃度で、消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。
76.9 ～ 81.4%：消毒用エタノール
 - * ～ 0.2%：塩化ベンザルコニウム（オスバンなど）
 - * ～ 0.2%：塩化ベンゼトニウム（ハイアミンなど）
 - * ～ 0.05%：グルコン酸クロルヘキシジン（ヒビテンなど）
 - * ～ 1.0%：次亜塩素酸ナトリウム（ミルトンなど）

■ウレタンマットレス

＜清拭方法＞

- ・マットレスが汚れたり、使用される方が替わったりする際は、必ずマットレスの全面を下記の手順（①～④）に従ってお手入れしてください。このとき、マットレスを折り曲げないように注意してください。
 - ①汚物があれば除去してください。（血液、便など）
 - ②石鹼水（市販の石鹼、中性洗剤などを水で薄めたもの）でマットレスの表面（ひょうめん）の側地を拭き、汚れを落としてください。
 - ③消毒剤でマットレスの表面（ひょうめん）の側地を清拭消毒してください。
必ず下記の消毒剤を、指定の濃度で消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。
 - * ～ 0.2%：塩化ベンザルコニウム（オスバンなど）
 - * ～ 0.2%：塩化ベンゼトニウム（ハイアミンなど）
 - * ～ 0.05%：グルコン酸クロルヘキシジン（ヒビテンなど）
 - * ～ 1.0%：次亜塩素酸ナトリウム（ピューラックスなど）
 - ④ストレッチャーの上などで自然乾燥させてください。また、天日干しはしないでください。
- ※マットレスは定期的に、清拭消毒してください。
- ※マットレスの洗濯は行わないでください。
- ※中芯は濡らさないように注意してください。
- ※オゾン殺菌機、オートクレーブ滅菌器などには対応していません。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

1) 製造販売業者

■パラマウントベッド株式会社

☎(0475)81-3000(千葉工場)

2) 販売業者

＜パラマウントベッド株式会社＞

□本社

〒136-8670 東京都江東区東砂 2-14-5 東京支店

☎(03) 3648-1171(代)

□札幌支店

〒060-0062 札幌市中央区南 2 条西 13-318-11

☎(011) 271-1181(代)

□仙台支店

*〒984-0015 仙台市若林区卸町 2-3-3

☎(022) 239-5211(代)

□さいたま支店

*〒336-0967 さいたま市緑区美園 3-23-1

☎(048) 878-0100(代)

□横浜支店

〒194-0004 東京都町田市鶴間 5-3-33

☎(042) 795-8800(代)

□名古屋支店

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-20-17

☎(052) 963-0600(代)

□大阪支店

〒550-0001 大阪市西区土佐堀 2-3-33

☎(06) 6443-8791(代)

**□高松営業所

**〒761-8031 高松市郷東町 223-1

☎(087) 881-8900(代)

□広島支店

〒733-0011 広島市西区横川町 3-8-5

☎(082) 293-1311(代)

□福岡支店

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-14-20

☎(092) 461-1131(代)

取扱説明書を必ずご参照ください。